

## 大原社会問題研究所五十年史

## III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

## 関東大震災とその対策

しかし、雑誌第一号が刷上り、未だ同人社の店頭に積まれてある内に、九月一日関東大震災の襲うところとなって、その大半は同人社の社屋とともに焼失した。同じく出来上ったばかりのウェブ『産業民主制論』上巻の訳書も、多数の書籍と共に烏有に帰した。

大震災は同人社の焼失のほか、東京在住の所員に多くの被害を与えた。囑託小泉鉄氏は被災をのがれて徒歩で大阪に達し、小田原に在る高野氏仮寓の倒壊したことも判明した。北沢新次郎氏の無事なことはわかったが、しかし帰朝したばかりの森戸氏と、権田保之助氏の消息は不明で、大阪に在る高野所長はじめ所員はその安否を気づかい、八日には委員会(高野、榎田、久留間、大林、細川氏)を開いて対策を協議した。その結果、越智道順、萩原久興両所員を直ちに東京に派遣して、研究所関係の被害を調べ所員の安否を確めることになった。また所員は全て俸給の5%を義捐金として在京被災所員に送ることになった。

しかしここに特記しておかねばならぬ点は、大震災に対して研究所は所員救済の措置を講ずるにとどまらず、震災によって生じた事態に対処して、資料蒐集など研究所本来の事業を直ちに開始したことである。すなわち同月一日の委員会では、関東地方で大量の図書資料が失われ、今後の入手難が予想されるので阪神地方で急遽購入することが決議され、翌日から高野所長はじめ榎田、久留間、内藤赴夫氏らは神戸、京都方面に出張して和書の購入を始めた。

雑誌焼失に対しては京都弘文堂より増刷一千部を刷ることにし、同時に同人社の復旧について対策を練った\*。また東京の権田氏は大震災に関する資料を集め、これをもとに「大震災とその施設」なる報告を作成した。

\*雑誌第一号は第三刷まで発行した。また同人社の復旧については、年末にいたり大原氏は復興資金五、〇〇〇円の支出を決定し、研究所からは図書雑誌等の損害について補償することになった。この点は後述。

大震災をめぐる研究所の対策と処置の一段落した一〇月二〇日、今後の事業の大綱を決定するため協議会が開催された。出席者は高野、長谷川、権田、榎田、森戸、細川、大林、久留間の諸氏で、次の事項が協議された。

- (一) 来春より研究所主催の講演会を開くこと(第一回は長谷川如是閑氏に決定)。
- (二) 雑誌第二号の準備にかかること。
- (三) 研究所アルヒーフを発刊し、権田「大震災とその施設」等を掲載すること。

その他、研究調査出版の計画について協議決定されたが、この会はずぐに森戸、大内、暉峻三氏帰朝歓迎会に切りかえられ、前記諸氏の外、大原、柿原、小河、鷹津、森川、越智、萩原、後藤、内藤、山名氏ら、約二〇名が参会した。この会は、三氏の帰朝を祝すると同時に前評議員に対しその労を謝し、あわせて長谷川、権田氏ら東京の被災所員に対し慰問の意を表する会でもあった。

本年度の研究所の出版物は、労働年鑑、社会事業年鑑はじめ、雑誌第一号、パンフレット五冊、

『産業民主制論』上巻等多数にのぼった。労働組合調査その他も前年以來ひきつづき行われ、翻訳では山村喬氏によるウェブ『消費組合運動』が完了した。図書資料の蒐集につき特記すべきことは、在独中の森戸氏によりエルツバッハ文庫の買入れが行われた事である。この文庫は無政府主義関係の文献コレクションとしては世界第一位のものといわれる(ちなみにこの文庫は第二次大戦の戦災をまぬかれて他の希覯本とともに研究所の書庫に収められている)。この外、大震災を機に、多数の和書が蒐集された。また年末には大阪の研究所に増設中の書庫が完成した。

一二月一八日の委員会は明年度の予算案を審議したが、これは研究所が財団法人となって以来最初の予算会議であった。当時の研究所の事業内容とその規模を知るため、左に予算案の概要とスタッフの氏名をかかげる。

研究所の豫算	
大正十二年度 支出内訳(細目)	
(一) 経常費 (一月ヨリ十二月迄)	
第一款 俸給及手當	金四萬九千三十八圓五十三錢也
第一項 俸給及手當	四八、七七八・八三円
第一目 研究員 十名	二五、七七九・六三
第二目 圖書主任助手及研究事務囑託十五名	一四、一〇五・〇〇
第三目 書記及雇員十五名	八、八九四・二〇
第二項 食費補助	二五九・七〇
第一目 雇員七名中食補助	二五九・七〇
第二款 調査及翻訳費	金一千七百六圓九十三錢也
第三款 印刷物頒布費	金四千二百八十六圓五十七錢也
第一項 単行本頒布費	三〇・三〇
第二項 出版費	四、二五六・二七(大震災ノタメ東京出版部ト)
共ニ出版物焼失ニヨル損失)	
第四款 圖書及製本費	金六千六百六十一圓八十二錢也
第五款 旅費	金一千百六十八圓四十五錢也
第六款 備消耗品費	金三千四十五圓七十一錢也
第一項 備品費	一、一二一・二〇
第二項 消耗品費	九八二・四九
第三項 薪炭暖房費	六六四・四三
第四項 電燈料	一五四・〇一
第五項 瓦斯料	八九・〇七
第六項 水道料	三四・五一
第七款 通信運搬費	金四百十一圓六十三錢也
第一項 電話料及切手代	二三八・九九
第二項 送金手數料	五一・六七
第三項 運搬費及小包料	一二〇・九七
第八款 税金	金一千五十九圓十九錢也
第一項 宅地租	一六七・三五
第二項 建物税	八九一・八四
第九款 火災保険料	金三百十圓九十錢也
第十款 修繕費	金一百五十二圓七十八錢也
第十一款 諸雜費	金五百五圓七錢也
第十二款 留學費	金九千四百三十九圓九十三錢也
第一項 學資	五、二八四・九三
第一目 森戸氏六ヶ月半分學資	二、四〇四・九三
第二目 高田氏八ヶ月分學資	二、八八〇・〇〇
第二項 旅費	四、一五五・〇〇
第一目 森戸氏帰国旅費	一、三七〇・〇〇
第二目 高田氏出發旅費及仕度料	二、二九〇・〇〇
第三目 森戸氏佛・英・米轉學旅費	四九五・〇〇
第十三款 豫備費	金五千四百十五圓九十三錢也
第一項 所長轉任旅費	一、〇三五・九七
第二項 所員轉任旅費	一二〇・〇〇
第三項 震災見舞金	一〇〇・〇〇
第四項 防火樹植付費	三〇〇・〇〇
第五項 臨時外國圖書整理費	三、八五九・九六
計	金八萬三千二百三圓四十四錢也 経常費
(二) 臨時費(同上)	

第一款 登録税及歩一税 金五千七百五圓七十九錢也  
   第一項 法人資産登記登録税 三、七七三・七九  
   第二項 同 歩一税 一、九三二・〇〇  
 第二款 建築費 金五萬四千二百七十六圓三錢也  
   第一項 書庫増築費 五四、二七六・〇三  
 第三款 圖書購入費 金一萬二千七百三十八圓九錢四厘也  
   第一項 和書購入費 一、三一三・八五  
   第二項 外國圖書購入費 一一、四二四・二四四(森戸、宇野両氏ニテ購  
 入書籍代及運賃其他)  
   第一目 書籍代 九、四三〇・一五  
   第二目 書籍運賃 六七〇・五四  
   第三目 雜費 一、三二三・五五四(書籍購入及輸出ニ関スル  
 謝禮其他諸雜費)  
 計 金七萬二千七百十九圓九十一錢四厘也 臨時費  
 合計 金十五萬五千九百二十三圓三十五錢四厘也  
 一九二三年末當時の研究所員氏名  
 研究員 高野 櫛田 森戸 久留間 権田 細川 大林 高田 森川  
   (森川をのぞき、他は委員)  
 研究囑託 長谷川 大内  
 囑託 宇野 小泉  
 事務員 庶務會計 主任鷹津 外五人  
   圖書 主任森川 外四人  
   資料室 主任後藤  
   調査室 後藤 越智 萩原  
 (以上は主要な所員の氏名であるが、総員は四〇名を超えていた)

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

---

前のページ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 →次のページ

研究活動・刊行物 OISR.ORG全文検索

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---